

資料1 ICTスキル習得体系表

分類	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5	
(1)基本的な操作等	(ア)アプリケーション操作	・教職員の指示やサポートを受ければ、学習用アプリケーションの基本的な操作ができる。	・学習用アプリケーションの基本的な操作ができる。	・学習活動に応じて、アプリケーションの必要な機能を選択して操作することができる。	・アプリケーションの機能と特徴を理解し、場面や目的に応じて、必要な機能を使い分けることにより、効果的に活用することができる。また、様々な操作方法を自分で試行錯誤することにより習得し、作業効率を向上させることができる。	・目的に応じて、必要なアプリケーションを選択したり、複数のアプリケーションをその特質に応じて連携させたりして、効果的に作業を行うことができる。また、その際に授業支援アプリケーションを有効に活用し、他者との共同作業を行うことができる。
	(イ)カメラ機能活用	・カメラ機能を使って静止画や動画を撮影することができる。	・用途にあった撮影を行い、学習に活用することができる。	・静止画のサイズを変更したり、トリミングしたりするなど、必要に応じて加工することができる。	・静止画や動画について、利用する目的に応じて、構図やタイミングなどをあらかじめ構想し、適切なファイル形式、適切なファイルサイズを選択し、記録することができる。	・記録された静止画や動画のデータを、その目的に応じてより効果的に利用できるよう、必要なソフトウェアを用いて加工することができる。
	(ウ)文字入力	・タッチペンや指で、色や太さなどを使い分けて文字を書くことができる。	・キーボードを使って漢字を含む文字を入力することができる。	・指示された時間内に、自分の考えや学習のまとめを正確にタイピング入力することができる。	・様々な学習場面で、必要とされる文字情報を、自ら吟味した言葉により、わかりやすく伝えるための工夫をしながら、必要な情報を正確に入力することができる。	・Webなどから得られる多様な資料をもとに論理的に考え、様々な観点から自分の意見や考えを、相手や目的に応じた方法でまとめ、効率を考えて入力することができる。
(2)問題解決・探究における情報活用	(ア)分類整理・まとめる力	・写真やファイルを保存したり、過去に保存したものを呼び出したりすることができる。	・名前を付けてファイルを保存したりフォルダを項目ごとに分類したりして、データを整理することができる。	・学習のめあてに沿って、収集した資料や情報を取捨選択し、わかりやすくまとめることができる。	・課題解決に向けて構想するために、フローチャート等に表示し、最適化を図ることができる。	・階層構造を考えてフォルダを作成し、複数のファイルをわかりやすく整理し、管理することができる。 ・目的に応じて情報と情報技術を適切に活用し、モデル化やシミュレーションを通して問題に対する多様な解決策を模索できる。
	(イ)プレゼンテーション力	・ペイントアプリ（プログラミングアプリ）で描いた絵や撮影した写真を用いて発表することができる。	・図や写真を貼り付けた簡単なスライドを提示しながら発表することができる。	・自分の考えが相手に伝わるよう工夫しながら、プレゼンテーションをすることができる。	・表、グラフ、アニメーション等を組み合わせたスライドを作成したり、ユニバーサルデザインに配慮したスライドを作成したりするなど聞き手にわかりやすく伝えることができる。	・プレゼンテーションソフトを使い、自らの意見や研究内容を適切にまとめたスライドショーを作成したり、目的や受け手の状況に応じて適切で効果的な組み合わせを選択・統合し、聞き手にわかりやすく伝えることができる。
	(ウ)情報収集力	・教職員の指示やサポートを受けながら、必要な情報を集めたり調べたりすることができる。	・課題解決に必要な情報を集めたり調べたりすることができる。	・課題解決に必要な情報を素早く検索、収集することができる。	・情報通信ネットワークからの効果的な情報の検索と検証の方法を適切に行うことができる。 ・情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善する手順を考えることができる。	・インターネットや各種ファイル内から、目的や必要に応じた情報を効果的に検索・収集し、その妥当性や信頼性を吟味できる。
	(エ)コミュニケーション力	・オンラインで、画面上の相手とコミュニケーションすることができる。	・オンラインで話合い活動に参加し、相手の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができる。	・画面共有機能で資料を提示したり、ホワイトボード機能で考えをまとめたりして、相手にわかりやすく伝えることができる。	・授業支援アプリやWeb会議システムの画面共有機能を使い、話合い・発表・作品制作等の協働作業を行うことができる。	・MetaMoJiClassRoom, Classi, Zoomの共有機能を使い、意図する活動を実現するための手順を意識して、話合い・発表・課題研究等の協働作業を行うことができる。
(3)情報モラル・情報セキュリティ	(ア)情報社会の倫理	・約束やきまりを守ってコンピュータを使うことができる。	・相手への影響を考慮してコンピュータを使うことができる。	・他人や社会への影響を考慮してコンピュータを使うことができる。	・ネットワークを利用する上での責任について考え、ルールや法律、違法な行為のもたらす問題の重要性を理解し、対面での関係と同様に、他者を尊重し、適切に行動することができる。	・公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、情報モラルを含む情報の妥当性や信頼性を踏まえた上で公正な判断を行い、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。
	(イ)情報に関する権利	・人の考えや作品を大切にすることができる。	・自他の情報を大切にすることができる。	・情報にも権利があることを知り、尊重することができる。	・情報に関する自分や他人の権利があることを踏まえ、データの処理ができる。 ・著作権や知的財産権などの尊重が重要であることを理解し、適切に行動することができる。	・情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて理解し、考察することができる。
	(ウ)危険回避	・コンピュータは、大人と一緒に使い、危険を避けることができる。	・危険な目に遭ったときは、大人に知らせて適切に対応することができる。	・危険を予測し、避けるように心がけることができる。	・ウイルス、不正アクセス、詐欺等の犯罪など、インターネットの危険性を理解した上で、安全に行動することができる。	・ウイルス、不正アクセス、詐欺等の犯罪など、インターネットの危険性を科学的に理解した上で、それらについて適切に行動できるとともに、自ら情報発信し、他者への啓発を行うことができる。
	(エ)情報の取り扱い	・知らない人に個人情報を話すことが危険なことだと理解して行動できる。	・情報には誤ったものがあることを理解することができる。	・情報の正確さを判断する方法を知り、確認できる。	・情報が社会に果たしている役割や及ぼしている影響について理解し、適切に利用することができる。	・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解し、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現された情報を評価・改善することができる。
	(オ)健康面への配慮	・決められた利用時間を守ることができる。	・利用時間を決め、守ることができる。	・健康を害する行動を自制することができる。	・自分の健康面に留意して、情報メディアの利用による健康を害する行動を自制することができる。	・情報機器の活用について、自らが健康に留意した学習環境や望ましい習慣についてその意義を理解し、自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。
	(カ)情報セキュリティ	・パスワードの大切さを理解し、扱うことができる。	・ダウンロードは危険を伴うことがあることを理解し、コンピュータを使うことができる。	・個人情報流出の原因やウイルスの簡単な知識を知り、注意しながらコンピュータを使うことができる。	・パスワードによる暗号化やバックアップ等、生活の中で必要となる情報セキュリティの重要性を理解して、行動することができる。	・情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解した上で、情報セキュリティを確保する方法について考えることができる。

※ステップ1…小学校低学年程度での習得を想定したもの  
 ステップ2…小学校中学年程度での習得を想定したもの  
 ステップ3…小学校高学年程度での習得を想定したもの  
 ステップ4…中学校程度の習得を想定したもの  
 ステップ5…高等学校程度の習得を想定したもの